

●平成25年度第1回清掃審議会 照会票まとめ

委員名	資料番号等	照会内容の要旨	事務局回答						
柴田委員	資料1	<p>●新潟市のごみ量の順位について</p> <p>資料1では、新潟市のリサイクル率は、50万人以上の都市で第5位という表示がありますが、一人一日あたりのごみ量はありません。新潟市のごみ量についても、同規模都市や政令指定都市での順位が表示されていると、現状のイメージがつかみやすいのではないかと思います。</p> <p>また、比較しやすいよう環境省の定義のごみ量表示もあるとよいと思います。</p>	<p>環境省が行う一般廃棄物の統計調査におけるごみ量は、廃棄物処理法に基づき国が定める基本方針の定義「一般廃棄物の排出量（計画収集量＋直接搬入量＋資源ごみの集団回収量）」を採用しています。</p> <p>この計算方法をベースとした場合の1人1日あたりのごみ排出量は次のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="1384 582 2056 730"> <tr> <td>H23年度全国平均</td> <td>975g／人・日</td> </tr> <tr> <td>同 新潟県平均</td> <td>1,033g／人・日</td> </tr> <tr> <td>同 新潟市</td> <td>1,073g／人・日</td> </tr> </table> <p>(※国の統計の最新は平成23年度版)</p> <p>今後の資料作成においては、ご指摘の点を踏まえ全国の自治体と比較できるよう、環境省の統計調査ベースのごみ量も表記していきます。</p>	H23年度全国平均	975g／人・日	同 新潟県平均	1,033g／人・日	同 新潟市	1,073g／人・日
H23年度全国平均	975g／人・日								
同 新潟県平均	1,033g／人・日								
同 新潟市	1,073g／人・日								
柴田委員	資料8-1	<p>●持ち込み料金の変更について</p> <p>持ち込み料金の件ですが、家庭用を70円にしてはどうかという提案です。</p> <p>理由は、指定袋10キロあたり62円ほどの料金をすこし上回ることで持ち込みの増加を抑制する効果をもちつつ、平成19年の「家庭系ごみの持ち込み手数料は、事業系の半分程度」という答申書とも矛盾しない金額だからです。(130円の半分は65円で、それを四捨五入すると70円になります。)</p>	<p>ご提案も踏まえ清掃審議会でご審議いただきたいと考えています。</p>						

八子委員		<p>●使用済紙おむつの処理について</p> <p>高齢化に伴い、今後紙おむつの使用量増大が顕著になることが予想されます。今は乳幼児でも使い捨て紙おむつの時代です。今後の大きな課題にもなることが十分予想されることから、以下の点を確認します。</p> <p>①現在紙おむつの収集はどのようになっているのか。</p> <p>②特別収集の場合、その比重の経年推移のデータはあるか。</p> <p>③今後どのような手立てを考えているのか。また、現在そうした面に向けてのプランはあるのか。</p> <p>④H25.7.15 付読売新聞に紙おむつの再資源化（燃料）の記事が掲載されていた。環境モデル都市宣言の都市でもあり、高齢化率が高い新潟のごみ問題として近々の課題と思い提案します。また、直搬ごみの比率上昇の要因かどうかも知りたいです。</p>	<p>①紙おむつは燃やすごみで出すこととなっています。</p> <p>②毎年の組成調査において、紙おむつは燃やすごみ中の「その他の紙類」に分類されます。平成 23 年度はその他の紙類が燃やすごみ全体の中で約 14%を占めますが、紙おむつの正確な割合は把握していません。</p> <p>③紙おむつのリサイクルについて、他都市で研究されている事例は承知していますが、現状では当市において具体的なプランはありません。</p> <p>④鳥取県伯耆町の取り組みについては、参考にすべき点は多いと考えています。ただ、伯耆町は1万1千人で当市は81万人のため人口規模が大きく異なり、その排出量も膨大です。リサイクル施設の建設や処理後物の利用先確保、使用済紙おむつの回収方法など様々な課題もあるため十分な検討が必要と考えています。</p> <p>なお、直搬ごみは燃やさないごみの割合が多く、家庭から出る紙おむつの大半は週3回の燃やすごみで収集されており、家庭系直接搬入ごみ増加の要因ではないと考えられます。</p>
八子委員		<p>●レジ袋有料化</p> <p>昨年12月の新潟日報紙上「窓」投書欄に青森県八戸市に6年間住み、新潟へ転勤した主婦の声で、八戸市ではスーパー、ホームセンターのほとんどの店舗でレジ袋が有料化でエコバッグ持参率の高さをあげていた。週1回のプラごみの中にはレジ袋そのものも多いたときは十数枚入っていることがあり、市民の意識の違いをみる思いです。</p>	<p>市では、新潟県が行う「レジ袋削減県民運動」と連動して、「新潟市市民ノーレジ袋運動」（平成21年3月30日）を推進し、不要なレジ袋の削減を進めています。</p> <p>この運動では、事業者に対して「無料配布の取り止めや再使用、軽量レジ袋使用など、レジ袋削減の取り組みによりその使用枚数・量を抑制すること」としています。</p> <p>また、去る4月18日には、新装開店したイオン新潟青山</p>

		<p>以前、高知県の前橋本知事の自販機撤廃運動や、佐渡市の前高野市長が全島をあげてのノーレジ袋運動の展開がありました。残念ながら公正取引委員会から独禁法に抵触するとのことで待ったが。しかし、島民の趣旨に賛同しての意識の高さは、県下の都市の中では群を抜いて高い比率でノーレジ袋が展開されています。</p> <p>環境都市宣言を機に段階的にでも八戸市に習い、有料化を問うてもよい時期にきているのではないのでしょうか。</p>	<p>店のレジ袋無料配布中止を含む環境保全・社会貢献活動としての取り組みを踏まえ、イオンリテール株式会社、新潟市消費者協会、新潟市の三者による「マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結しました。</p> <p>市としては、民間事業者等による自主的なレジ袋削減に向けた取り組みを支援していくとともに、ごみの減量や3Rを積極的に推進する企業を評価し、PRしていくこととしています。</p>
--	--	--	--